

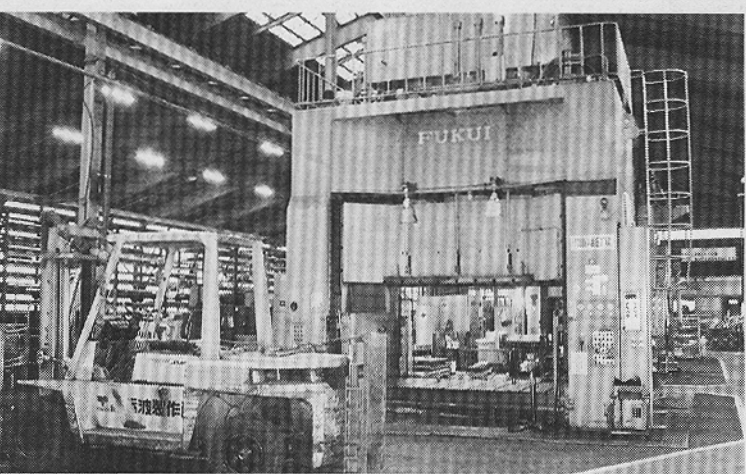
挑む! 加工現場

ドキュメント

1000トンのプレス機
2.5×4.5mのワー
クを載せる大型5面加

工場。大型レーザー加工機や溶接機械も擁し、切る・曲げる・削る・つなぐ、さらに組立と大物ワークで総合力を発揮しているのが富山県の砺波製作所(森澤正良社長、従業員約110名)だ。加工物は、顧客数30社程に達するというバ

スのプレス部品から、農業機械部品、工作機械の架台、ガラス繊維巻き取機、立体駐車場・建設機械用の大型減速機ユニットとさまざま。エレベーターの巻き上げ機ベースフレームなどでは、製缶加工中心の本社工場と、機械加工と組立を担当する井波工場の2工場を連携させ、鋼材を最終製品に近い形まで作り込んでクライアントに納める。会社設立から60余年、地元では大物加工の雄として知られてきた。



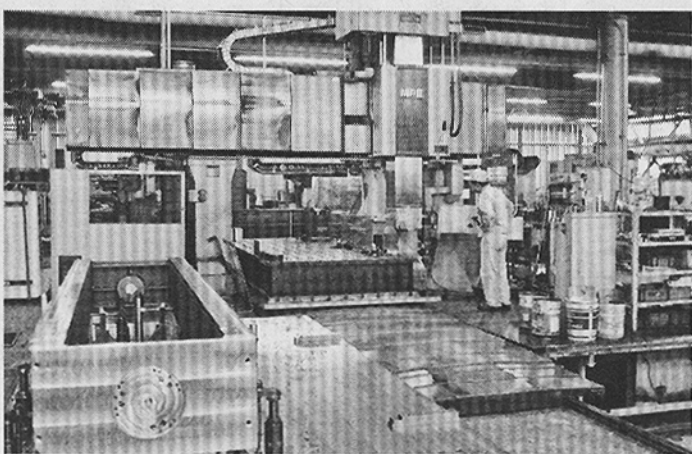
1000tの大型プレス。大物加工向けの多彩な設備が持ち味

ところが2009年5月、ある事業拡張策が裏目に出て、会社は経営破綻に追い込まれた。破綻から4カ月後、長野県の自動車・装置メーカー、アルファードesignが事業を引き継ぎ、9

砺波製作所

陽はまた登る — 再チャレンジへ丸

プレス1000トまで、超大物機械加工に強み



本社工場で製缶加工したワーク(写真左手前)を5面加工機で機械加工する。

月1日に新・砺波製作所として再スタートを切ったのだ。

■全員参加の改善活動

アルファードesignは全従業員の継続雇用を

決定。職場の仲間たちは皆、再チャレンジに燃えていたと、長年、製造部門を仕切ってきた南康夫常務が話す。

「すぐS活動に取り組み、全社員から改善提案を募りました。ひと

月で200を超す提案が集まりましたね。これなら絶対やり直せる、嬉しさを噛み殺しながら、私は一ひとつすべての提案にコメントを記しました」。

■異分野も視野に一貫生産狙う

もつとも、ご多聞に漏れずコスト削減要求は厳しく、大手のクライアントは海外生産や調達の手を伸ばしている。ある幹部が話す。「北陸の加工賃はもとと安い。中

若手リーダーを中心に改善のためのディスカッションも自発的に開かれた。機械加工分野では、切削工具メーカーの技術者を招き切削講習会を定期開催する一方、情報共有を進めた。

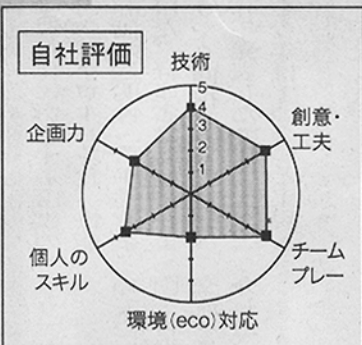
そうして各部門で再スタートのための活動が沸き起こった頃、営業部では、全国のクライアントを回って、再スタートの状況を報告しつつ、取引継続を懇願した。結果、全顧客が「取引継続」を快諾した。「砺波さん、良かった、頑張ってくださいね」の対応に、社員の

意気込みは再び上がった。ア社は、太陽電池モジュール組立て、電子部品の実装機などを得意とし、設計や3Dプログラム作成に力を持つ。前出の南常務は「設計部門があるのと無いのでは、やれることがまったく違う。アルファード社員とは加工プログラムの最適化などで研修会を開いており、既に効果が出てきた。一秒も無駄にしないという意識も高まってきた」と話す。

富山県砺波市

「プレス・製缶・機械加工・組立てほか」

この春には3年ぶりに新卒を採用するという。



もとからの複合加工能力に、設計力が加わり展望が見えてきた。仕事量が戻る一方、自社製品として累計150台以上の販売実績を持つゴルフ場向け芝管理機械では、新機種投入を睨む。今後はアルファードの連携で環境・新エネルギー関連事業に乗り出す考えだ。